

そなえる

1998 NO. 93

毎月15日は
川崎市民地震防災デーです

◎発行/川崎市
◎編集/建設局防災対策室
川崎市川崎区宮本町1番地
電話 (044) 200-2111 内線2840

皆さんのご家庭で……

「いまさら何を、こんな気やすめ」と感じたら →

「できるだけ努力をしておこう」と行動したら →



平成7年1月17日、兵庫県を中心とする地域を襲ったあの「阪神・淡路大震災」では、6,400人を超える多数の方の命が失われたのをはじめ、下の表のように甚大な人的・物的被害を被りましたが、その後3年余りが過ぎ、すでに地震に対する意識が風化してしまっている人も少なくないのではないのでしょうか。しかし、言い尽くされた言葉ではありますが、天災は忘れたころにやって来るのです。

その忘れたころに起こるかも知れない大地震に対して、阪神・淡路大震災の惨状を知っている私たちは、ただ手をこまねいて怖がっているだけ、無防備なままでいるというわけにはいきません。できる限り被害を小さく抑えるために、知っておき、やっておくべきことがあるはずですよ。

生き残り対策その1……耐震性の高い建物に住む

倒壊した建物は、次のような傾向が見られました。

- 木造
 - 築年数が40年以上過ぎた老朽建物
 - 柱や土台が白蟻や腐食により弱っていた建物
 - 二階が増築され、一階部分の補強が不十分だった建物
 - 開口部が多く、壁や柱が少なかった建物
 - 柱・土台・はり・筋かい等の接合部が金物により補強されていなかった建物
- 鉄骨・鉄筋コンクリート造
 - 1981年(昭和56年)の新耐震設計法施行以前に設計・建築された建物
 - 開口部が多く、壁面がかたよった配置の建物

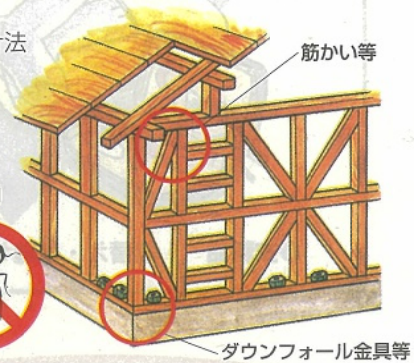


図1 地震に強い建物の例

実際には、すでにお住まいの建物を建て替えたり、転居したりすることは簡単にはできません。しかし、可能な限りの対策をとることが結局皆さんの命を守るうえで有効なことであると思います。

生き残り対策その2……家の中に安全な空間を確保する

- 家具などの転倒・移動防止措置をする。できれば壁面に造り付けの収納庫などを設け、家具を置かない。特に就寝中は無防備な状態となるので、寝室の安全性は重要。
- 物が落ちないように、ガラスが飛び散らないようにする。(図2参照)

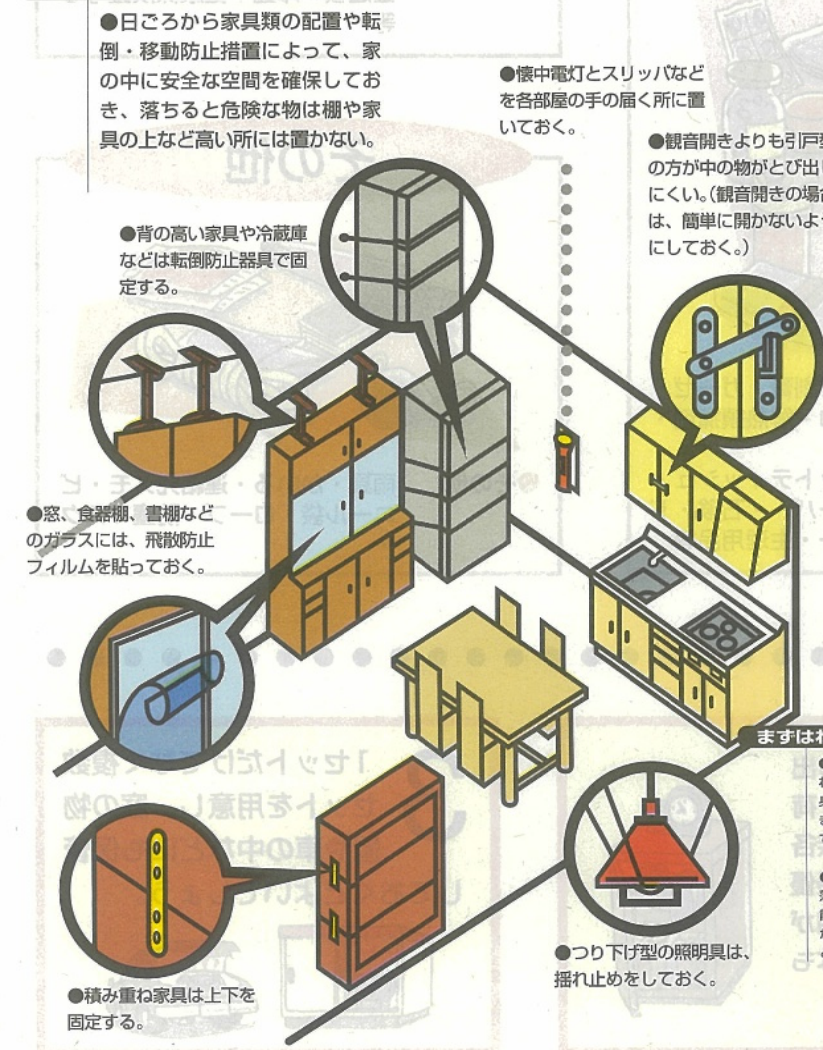
阪神・淡路大震災被害状況(人的被害・住家被害)

人的被害	死者	6,430人
	行方不明者	3人
	負傷者	8,763人
	計	43,773人
住家被害	全壊	104,900棟
	半壊	144,256棟
	一部破損	263,690棟
計	512,846棟	

最も重要なことは、ズバリ死なないこと、けがをしないことだと思います。本紙「そなえる」89号でもお知らせしましたが、阪神・淡路大震災で亡くなった人の大半は、建物の倒壊や家具の転倒による「圧死」でした。実際に神戸で震災を経験した人の話では、「一瞬のうちに2階家が潰れて平家になった。」とか「倒れてきたたんすの下敷になって身動きできなかった。」「テレビが飛び、部屋の隅からピアノが突進してきた。」などといったことが起きています。皆さんのお住まいがもしも強い地震にみまわれたらどうなるか、想像してください。

では、そのような被害から逃れるために、何をどうすれば良いのでしょうか……

図2 地震に強い部屋づくり



まずはわが身の安全

●テーブルの下に隠れるなどして倒れてくるものや落ちてくるものから身を守る。隠れる物や余裕がないときは、手近にある物(座布団など)で頭を守り。

●食器・照明器具・窓ガラスなどが落ちてきたり、床に散らしている可能性があるため、むやみに素足で歩かない、特に暗いときには注意。



死なずにすんだ人も、お腹はへるし、水も飲みたい だから、自分で、できるだけのことを用意しておきたい

幸いにして難をのがれた人達も、平常時のように便利で快適な生活は望めません。発災直後の混乱した状況下では、行政や防災関係機関が対応できる範囲や件数は限られていますから、各ご家庭で電気、ガス、水道等が途絶したときのために、懐中電灯、カセットボンベ式コンロ、携帯ラジオ、備蓄食料、飲料水、けが人の発生用に救急用品などを備え、また、ご近所どうしの協力体制を日ごろから整え、皆さん各自がそれぞれの能力に応じた役割分担に基づいて、たとえば初期消火、救出救護などの応急活動を行うことができるようにしておくことが必要です。

照明等



●照明等 懐中電灯・携帯ラジオ・予備電池等（ラジオ付懐中電灯防水型が便利）

食料・飲料水



●食料 乾パン・缶詰・アルファ米・カップ麺・餅など
●飲料水 ペットボトル入り飲料水・水缶詰・給水を受けるポリタンクやビニールバケツ（あまり大きくないほうが運びやすい）

寝具



●寝具 毛布（エマージェンシーブランケットを含む）・寝袋・レジャーシート・空気まくら等

衣料品



●衣料品 着替え・裁縫セット等

貴重品



●貴重品 現金（小銭もあると便利）・預金通帳・印鑑・健康保険証写し等

救急・衛生用品



●救急用品 傷薬・包帯・絆創膏・ガーゼ・清浄綿・三角巾・解熱鎮痛剤・整腸剤等
●衛生用品 タオル・ウエットティッシュ・ティッシュペーパー・石鹸・ドライシャンプー・生理用品等

調理具等



●調理具等 携帯コンロ（予備ボンベとも）・多機能ナイフ・ライター・コップ・食器等

その他



●その他 雨具・かいろ・連絡先メモ・ビニール袋・ロープ・防塵マスク…

備蓄品・非常持出品の例と保管場所

1 上にあげたものは、一般的な例ですので、各家庭の必要に応じたものを用意してください。（特に乳幼児や病人がいる場合など）

2 リュックサックなどに入れて、持ち出しやすいところに置いておきます。荷物が大きくなりすぎる場合は、家族各々が持ち運べる大きさに分けておいたり、最優先で持ち出すものと二次的に持ち出しても用が足りるもの（避難生活が長引く場合に必要なものなど）を分けておくといでしょう。



3 1セットだけでなく複数セットを用意し、庭の物置や車の中などにも保管しておくといでしょう。

